

アグリゲータが果たす 再エネ導入への貢献について



2024年7月25日

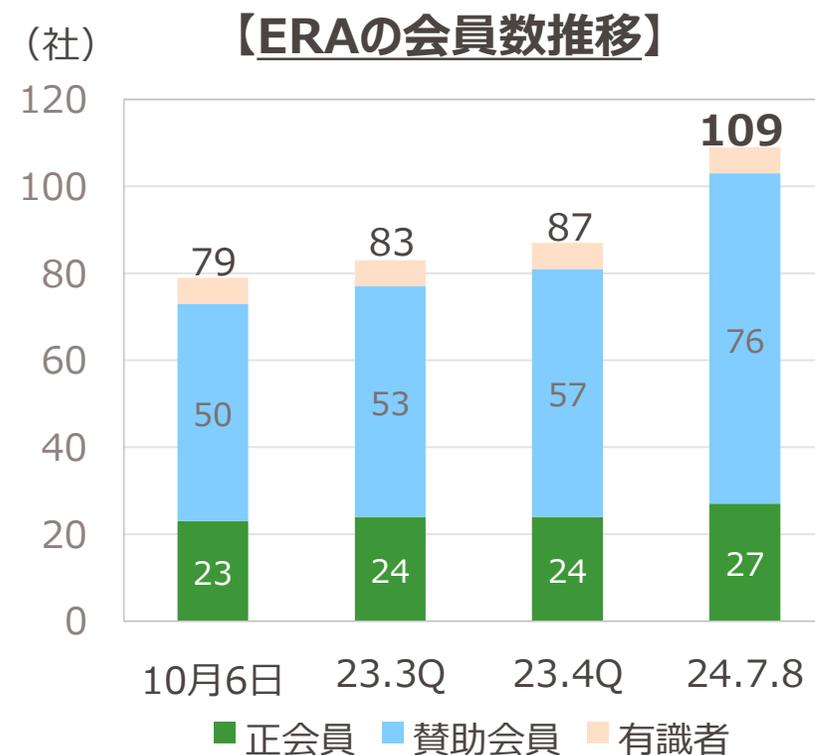
エネルギーリソースアグリゲーション事業協会

川 口 公 一

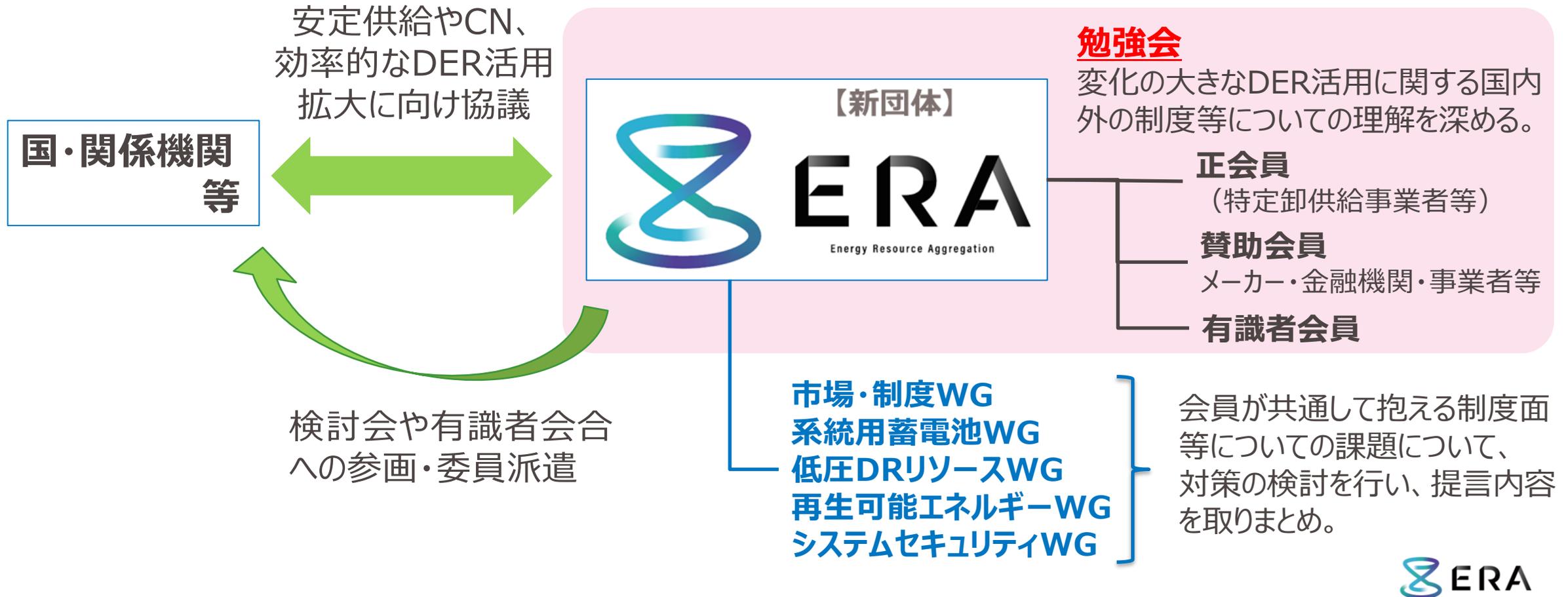
- ▶ 特定卸供給事業者（アグリ事業者）を中核に、2023年10月に発足。
- ▶ 「ERABの健全な発展を図るとともに、分散型エネルギーリソース（DER）の活用を通じ電力需給の安定やエネルギーセキュリティの向上、カーボンニュートラルの実現に貢献」することを目的とする。



会長理事	川口公一 E-Flow 社長
副会長理事	平尾宏明 Shizen Connect Chief Strategy Officer
理事会社	エナリス、エネルエックス・ジャパン、Electro Route Japan、住友商事、デジタルグリッド、電源開発、東北電力、丸紅新電力
正会員	特定卸供給事業者ライセンス保有者（及び取得予定者）27社
賛助会員	事業者、メーカー、金融機関 等 76社
有識者会員	6名

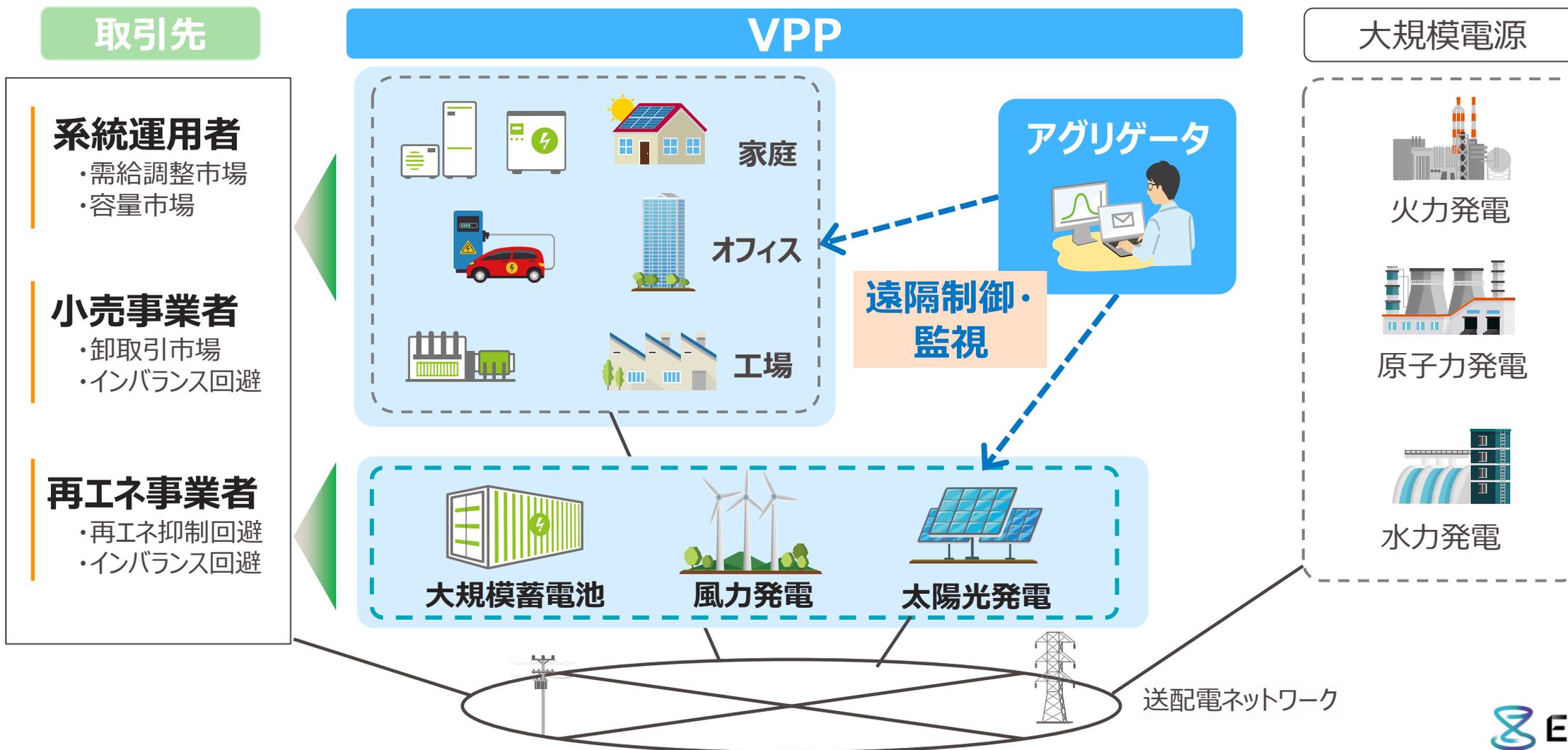


- 勉強会を開催し、事業制度理解を深める。
- 「再生可能エネルギーWG」「市場・制度WG」含め5つのWGにて課題検討を実施。
- 会員が抱える課題についてWGにて整理し、国・関係機関との意見交換・意見提起に繋げる。

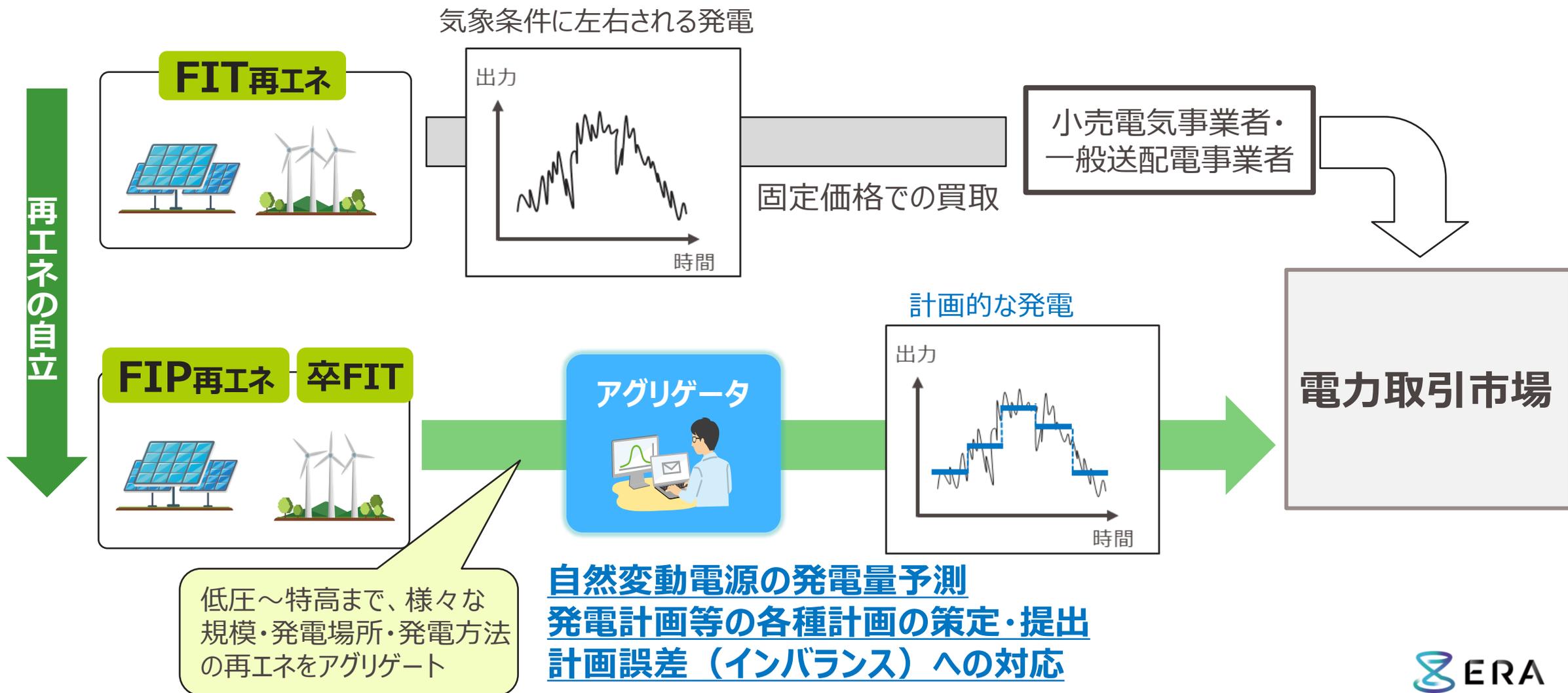


アグリゲータ（VPP事業者）が運用するリソース

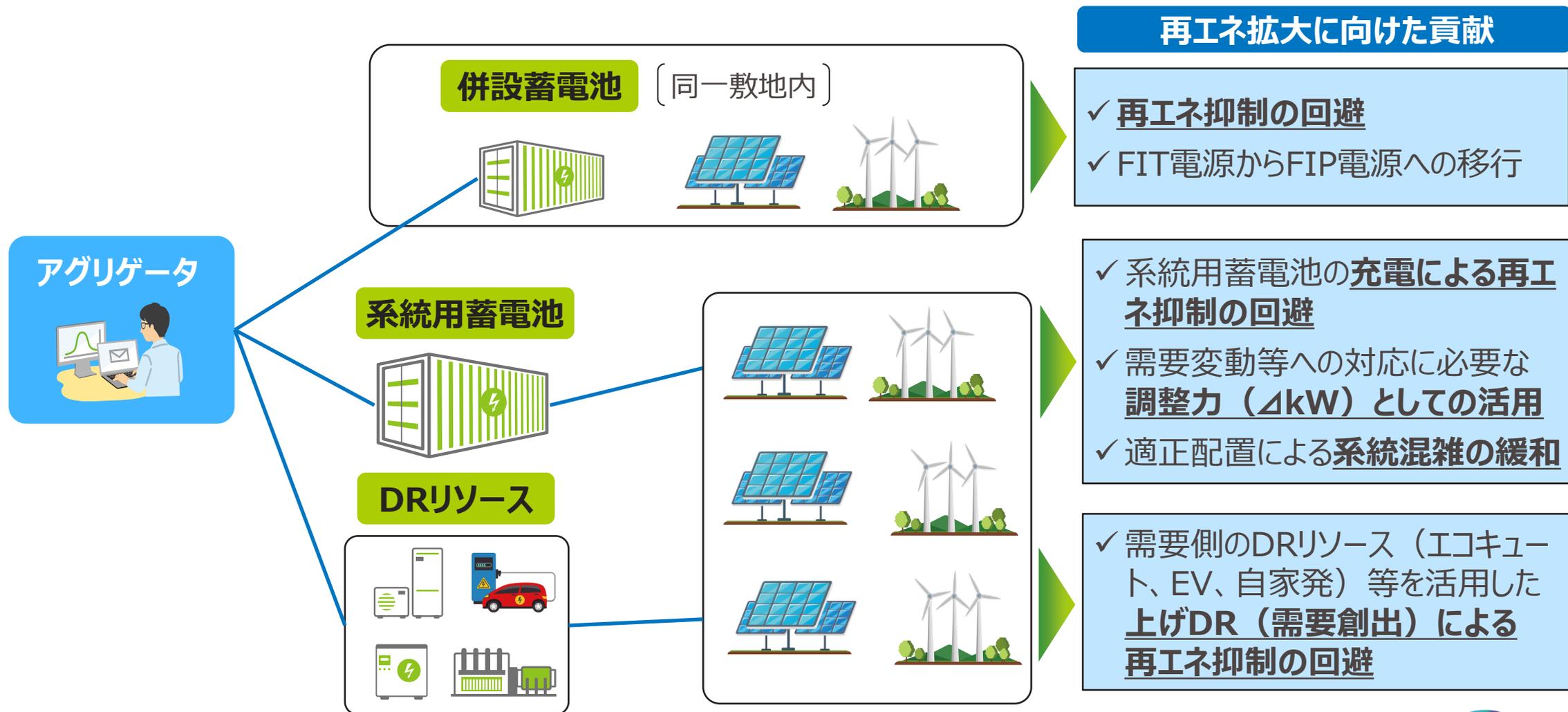
- ▶ 多様な分散型エネルギーリソースを遠隔制御し、**VPP（バーチャル・パワー・プラント）**として活用
- ▶ 各VPP事業者は、市場等での取引を通じて、電力の安定供給やカーボンニュートラルに貢献



- アグリゲータは、**FIT再エネのFIP転換を支援**し、再エネの自立・主力電源化の一翼を担う。
- **卒FIT再エネが事業継続していくのに必要な運用ノウハウ**をアグリゲータが提供。

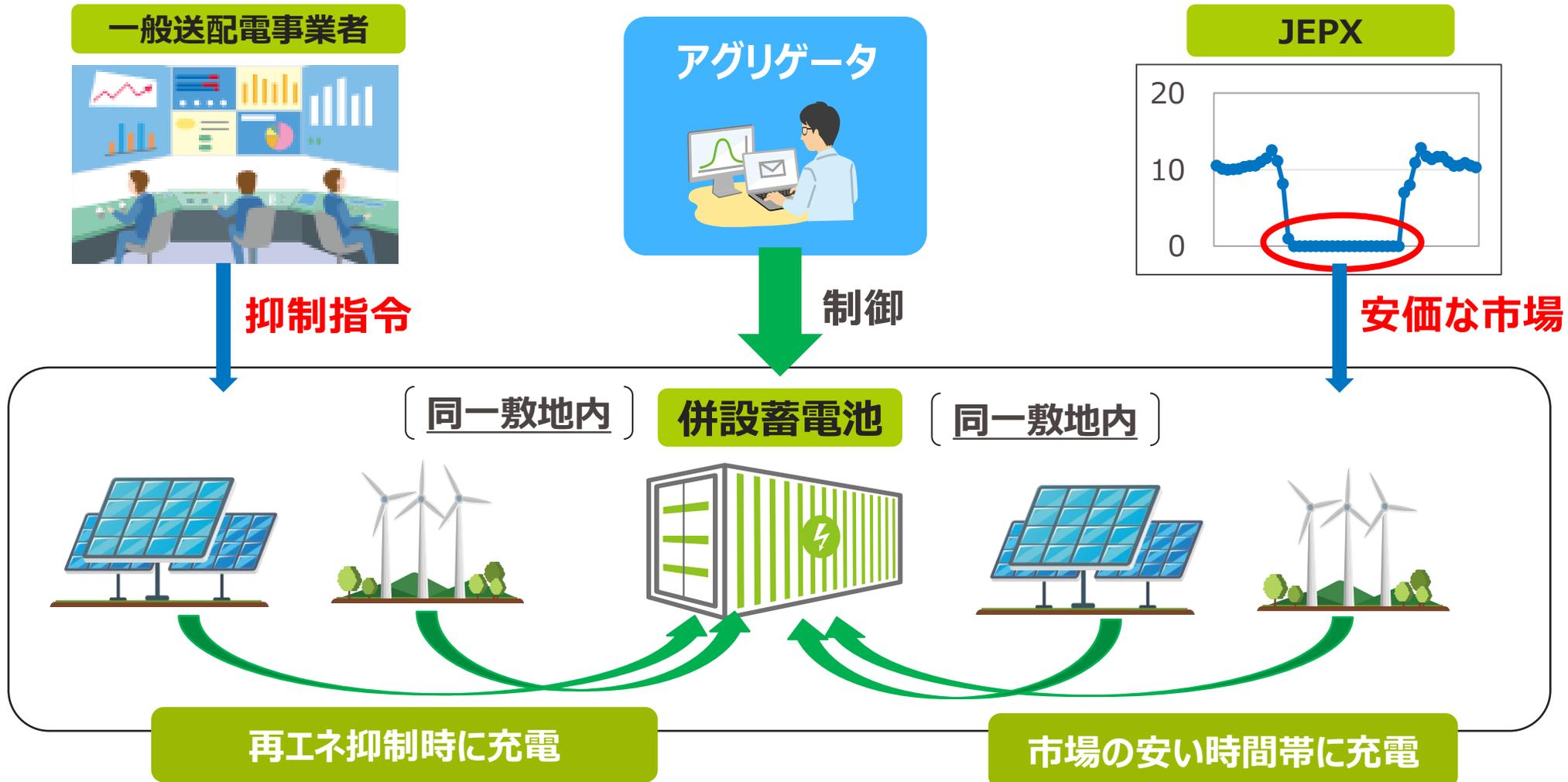


➤ アグリゲータは、様々なリソースを活用し、さらなる再生可能エネルギーの導入拡大に貢献

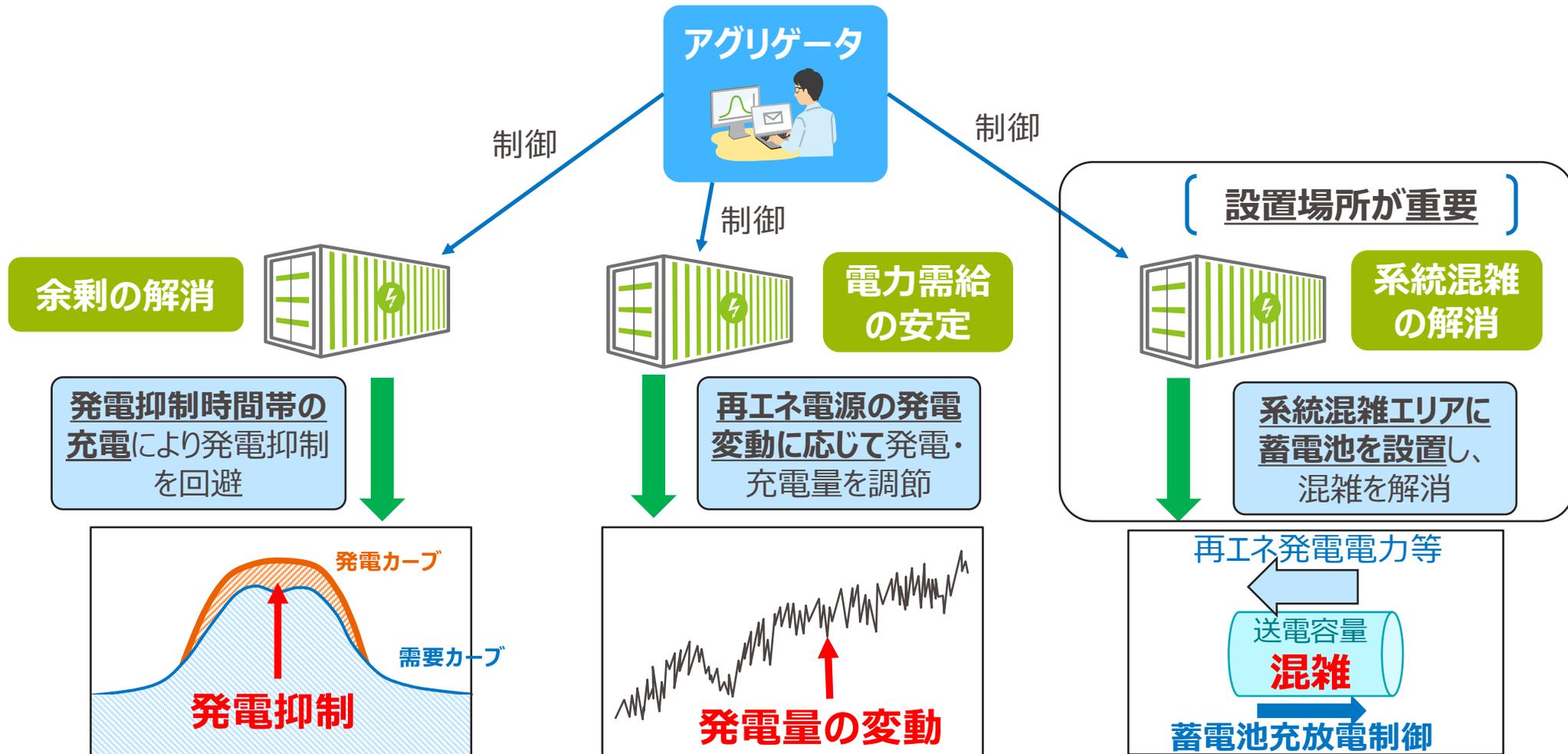


再エネ拡大に向けた取り組み 1 / 3 (再エネ併設蓄電池)

- 需要が少ない、一般送配電事業者からの抑制指令時等に充電し、夕方等の需要が多い時期に放電し、再エネ抑制回避
- JEPXが安い時間帯に充電し、JEPXが高い夕方等に放電し、収益向上を目指す。

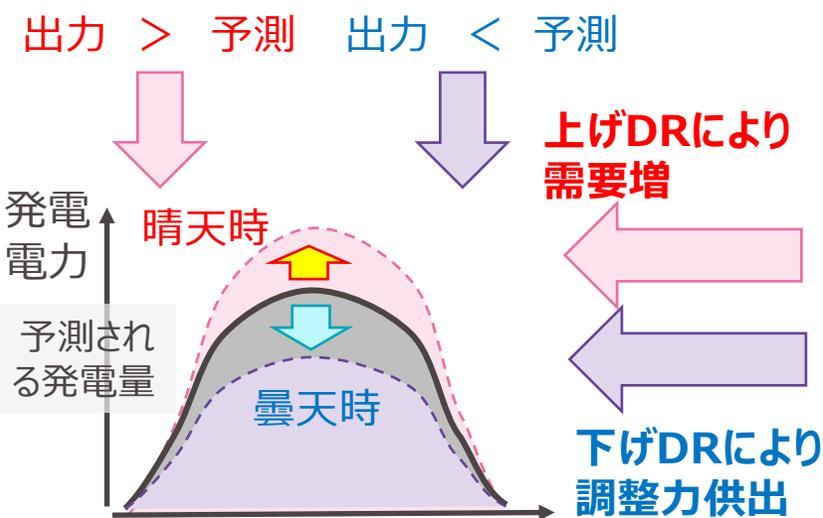


➤ 系統用蓄電池は、再エネの発電抑制回避に加え、再エネ電源の発電量の変動に応じた調整や系統混雑解消など、更なる再エネ導入への貢献が期待される。



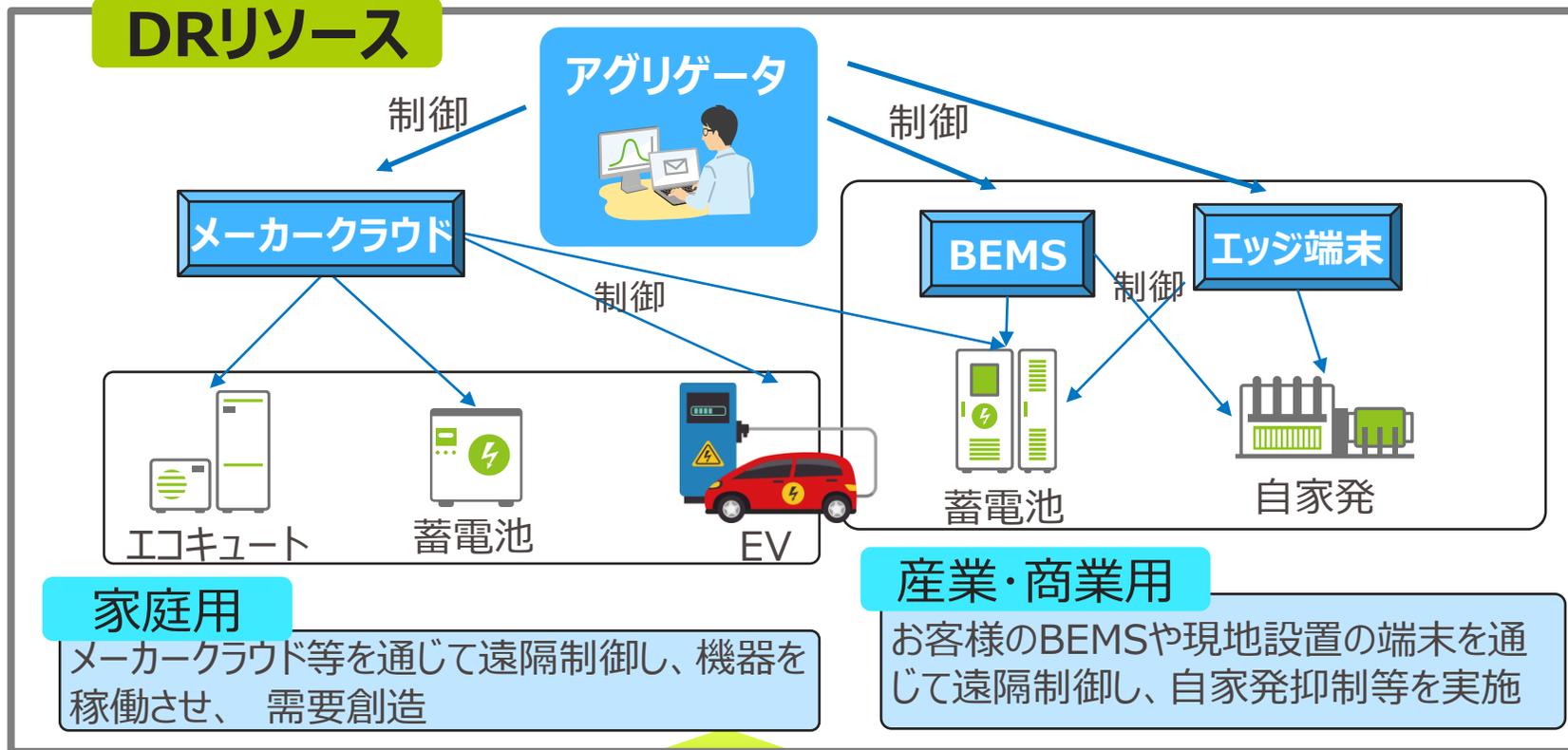
- DRリソースは多種多様で制御手段もリソースによって異なる
- 様々な機器を遠隔制御し、需要を創出することで、再エネ抑制回避に貢献
- 将来的には、低圧のDRも含めて量的・系統的に分散拡大することで、系統増強回避への貢献も

自然変動再エネ



需給バランス調整および再エネ出力抑制回避

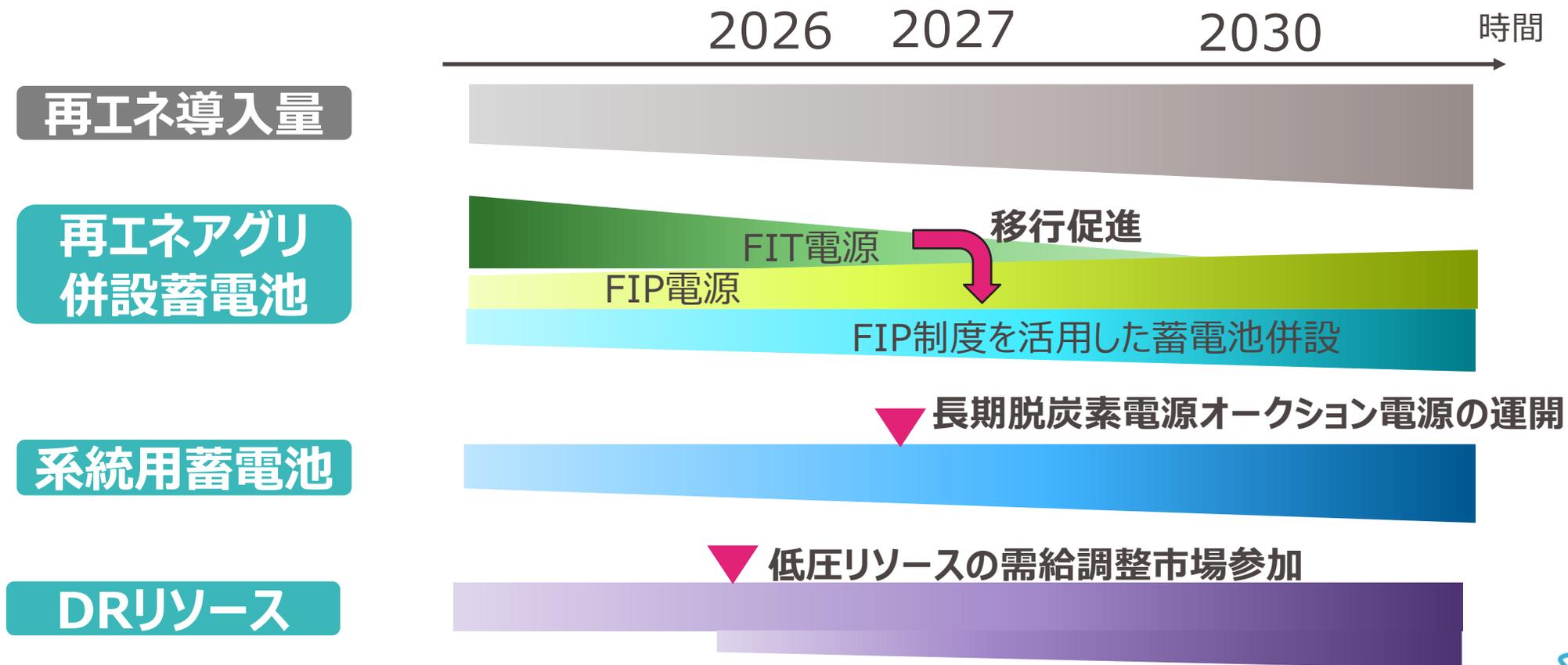
DRリソース



効率的な制御手段で低コストにて拡大

系統混雑時の上げDRにより混雑解消 (前頁における系統用蓄電池と同様)

- 再エネ導入量の拡大に対応し、FIT電源のFIP転換、系統用蓄電池導入促進、低圧リソースのVPP参加促進、といった動きが、制度支援を受けて加速しつつある。
- アグリゲータとしては、これら多様なリソースを効率的・効果的に運用していくことを通じて、再エネ導入量拡大、カーボンニュートラルに貢献していく。



- 再エネ大量導入に伴い生じ得る課題に対しては、各会議体での議論/検討が進みつつある。
- 再エネ大量導入に向けて、分散型エネルギーリソースを有効活用し、電力システムにおける課題解決に繋げていける様、必要な措置の検討については、アグリゲータ団体であるERAとしても可能な限り貢献して参りたい。

再エネ大量導入に伴う課題	アグリゲータ・分散型エネルギーリソースによる貢献可能性	課題検討状況
好天時の再エネ電気の余剰	上げDRを含む需要家側での需給バランス調整	低圧リソース他を活用してDR量を増やすための環境整備を“次世代の分散型電力システムに関する検討会”や“DRready勉強会”にて議論中。
自然変動電源の出力変動 従来調整力や慣性を担っていた電源の退出	周波数調整力や疑似慣性の具備や取引市場への供出	電力広域的運営推進機関における“グリッドコード検討会”において主に系統用蓄電池に求める要件として検討される見込み。

- アグリゲーションビジネスにおいては、様々な分散型エネルギーリソースを遠隔で監視・制御し、それらの生み出す電氣的価値を束ねて市場取引することが特徴。
- 再生可能エネルギー発電設備（自然変動電源）のFIP制度活用による自立化・主力電源化においても、それらを束ね・均すことと、発電予測精度の向上を通じて、インバランス（計画と実績の誤差）の低減等を通じた貢献を実施。
- 今後は、系統用蓄電池の導入が促進していることや、FIP制度適用再エネならびに同制度を活用した蓄電池併設再エネの増加、調整機能を具備した需要側リソースの低圧も含めた拡大においても、アグリゲータの活躍・貢献の場が広がると認識。
- ERA（エネルギーリソースアグリゲーション事業協会）としても、様々な会員企業の知恵を結集し、最適な制度設計議論に協力して参りたい。

The END